

夏の虫を観察しよう

内島くに子（佐倉市）

日時：2024年7月20日（土）10:00～12:00

参加者：21名（大人9名、子ども12名）

担当指導員：伊藤、小川、西野、内島

朝から30℃に届きそうな警戒レベルで、参加者の前で暑苦しそうな顔はすまいと思いつながら、熱中症予防対策も十分に整え現地に向かう。

今年は暑さ対策としてコースを多少短くし、集合場所のセンターから虫捕りの原っぱへ直接向かったが、そこは虫好きの子どもたち、途中で遭遇した虫たちを放ってはおかず網を持って追いかける。指導員同士連絡を取り合いながら、列から離れた親子を見守ることにする。

それでも虫捕りの原っぱに着いた時は全員が集合しており、早速空を舞うウスバキトンボの群れを追いかけるが、他のトンボと飛び方が違うのかなかなかキャッチできない。そのうち他の虫にも目が向き始め、マメコガネ、ゴミムシ、ショウリョウバッタ、ニイニイゼミ、チョウチョ（キタキチョウ、モンキチョウ、モンシロチョウ、ルリシジミ、ヤマトシジミ、ベニシジミ）、ジョロウグモ、シオカラトンボ雌雄等々虫の入ったカップの数が増えていく。集まった虫を皆で囲み、それぞれの虫の餌は何かと指導員が問いかける。子どもたちはこのような質問にはよく答えてくれる。

虫捕りの後は、白いシートの周りを皆で手をつなぎ虫の追い込みだ。手をつなぐと不思議と連帯感も生まれ、虫の追い込みにも精が出る。今年はシートの色を白にしたので分かりやすい。予想どおりバッタがシートの上で飛び跳ねる。他の小さな虫たちも、訳がわからないまま集められた様子。ゲームを楽しみ、1時間ほどでセンターに戻る。

センターの職員さんが部屋をととても涼しくしてくださっており、ほっと一息涼を取る。その間に熱中症予防の清涼菓子をなめてもらう。

はじめに手作り紙芝居を見てもらい、先ほど捕まえた虫たちの命のつながりのまとめをする。

次に簡単な虫クイズをした後、メインのカナブンの飛行を体験してもらった。あまりにも部屋が涼しいので最初はカナブンもおとなしくしていたが、手で温めると次から次へと飛び始めた。タマムシとの比較で翅の構造がよくわかる。タマムシは前翅を拡げて飛ぶが、カナブンは前翅を閉じたまま後翅で羽ばたく。

他にカマキリがゴキブリを捕まえる瞬間も見ってもらう。2匹のカマキリのうち1匹は知らん顔。「実験失敗だね」と言われてしまったが子どもたちは興味津々、そのうちにもう1匹が獲物を捕らえパクリ。

参加者の感想を聞くと、なかには虫が嫌いな親子、子どももいたが、カナブンを手に取り飛ぶ姿を眺めているうちに虫嫌いが少し解消されたようだ。全員楽しかったと喜んでいただいたが、徐々に虫捕りをして楽しかったというお父さんの感想が印象的だった。

観察会の様子

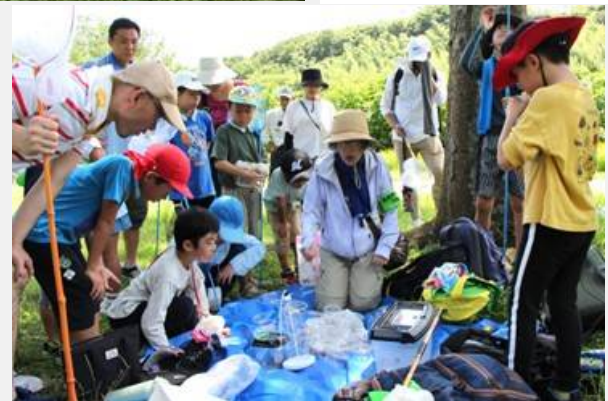
<野外活動：虫捕り>



左2枚)
自由に虫捕り

左下)
全員で、シートにムシを追い込む

下)
捕ったムシのまとめ



<室内プログラム>

紙芝居（自然のひみつ）、ムシムシクイズ、ムシ遊び（カナブン）



紙芝居に集中する参加者。



紙芝居（自然のひみつ）



ムシムシクイズ



回答を考える参加者。



ムシ遊び、カナブンが一生懸命飛ぶ姿を楽しむ参加者。



ムシ遊び、コカマキリが、捕食する様子を見守る参加者。幼虫で行う予定でしたが、羽化してしまい、警戒心が強くなった成虫で行うことになりました。

カナブンに紐をつけて飛ぶ様子を観察しました。タマムシ、クワガタでも飛ぶ姿を観察しました。